

教育コミュニティづくり通信

平成 31 年 4 月 26 日

平成 31 年 4 月 26 日、寝屋川市立池田小学校を訪問しました。池田小学校では、地域の方が中心となり、特色ある取組みを行っています。今回は、地域と学校、PTA が協働して、1年生の学校生活を支援する「エプロン先生」の取組みについて紹介します。

地域で新1年生を支える エプロン先生

「エプロン先生」とは、新1年生の学校生活をサポートするため池田小学校区の地域協働協議会の方々が、1学期の始業式から4月末までの約1ヶ月間、1年生の各教室に入って、授業中困っている子どもへの声かけや読み聞かせ、給食中のお手伝い等をする取組みです。

この取組みは、平成27年度よりスタートし、今年度で5年目になります。年々規模や期間を拡大し、夏休み明けの1週間もエプロン先生が活躍されています。



学校の教職員の話

「入学したばかりで学校生活・集団生活に慣れない1年生のサポートをしていただける『エプロン先生』がいてくださることは、本当にありがたいし、心強い。」と担任の先生。

「こちらからお願いするよりも前に、子どもたちのことを考え、動いてくださるので、助かっています。」とも話されていました。

校長先生にお話を聞くと、「学校だけでできることには、限界がある。地域の方々が積極的に取り組んでくださり、とてもありがたいです。」と言っておられました。

エプロン先生にお話を聞くと・・・

発足当時からエプロン先生として活躍されている方に話を聞くと、「学校現場に入らせてもらうことで、学校の先生の大変さを実感しました。」「子どもたちに顔を覚えてもらえ、地域で会った時に声をかけてくれることがうれしい。」と笑顔で話されていました。また、「お互い知り合えることで、私からも声をかけやすい。地域の子もたちとつながれることがうれしいです。」ともおっしゃっていました。

つながりが人を育む、つながりが地域を育む

池田小学校の敷地内には、地域協働協議会専用の部屋があり、エプロン先生の控室や、地域の方の会議スペースとして活用されています。この部屋から、新たなつながりが生み出されています。

